

with コロナによる料理実態の「今」

クリナップ株式会社

クリナップは日本で初めてシステムキッチンを製造、販売したキッチンメーカーとして、キッチンにまつわる生活者の実態調査を継続的に実施し、キッチン白書として2017年から公開しています (<http://cleanup.jp/oikura/kitchen-hakusyo/>)。

今回は「食・料理に関する生活者調査」として、コロナ禍で在宅時間が増加し「自炊疲れ」の声も聞こえるなか、料理の実態について調査・分析しました。特に20・30代の若年層に、料理への向き合い方について変化の兆しが見られました。

【調査結果のポイント】

- ・コロナ前と今、若年層で料理をする人の比率差が増加しているのが目立つ。
- ・若年層は「通勤時間が減り余裕ができた」や「家族の自宅にいる時間が増えた」ことにより料理頻度が増加に変化した。

- ・コロナ禍による負担増が注目されがちだが、積極的に料理をしている姿も見られる。

【調査概要】

期 間：①2021年8月23日～27日

②2021年10月1日～4日

調査対象：①20歳以上の男女、全国

②20歳以上の男女、頻度を問わず料理をする方、全国

回 収 数：①40,000人

②1,200人

調査方法：インターネットによるアンケート調査

株式会社ヴァリューズ協力のもと実施

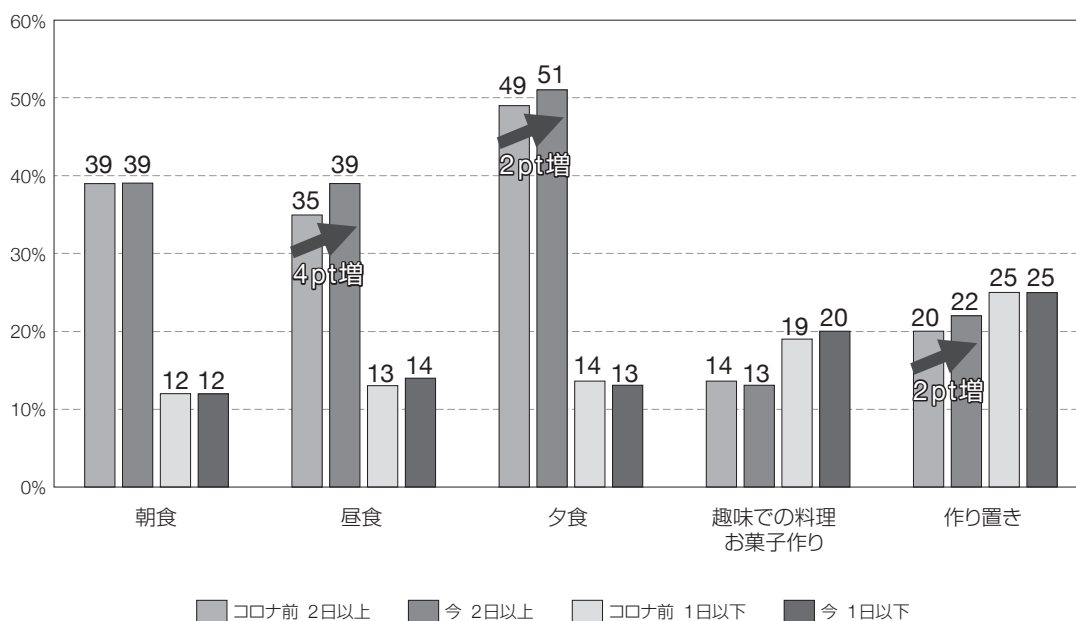


1. 料理頻度に変化はあったのか (食事別料理頻度の変化)

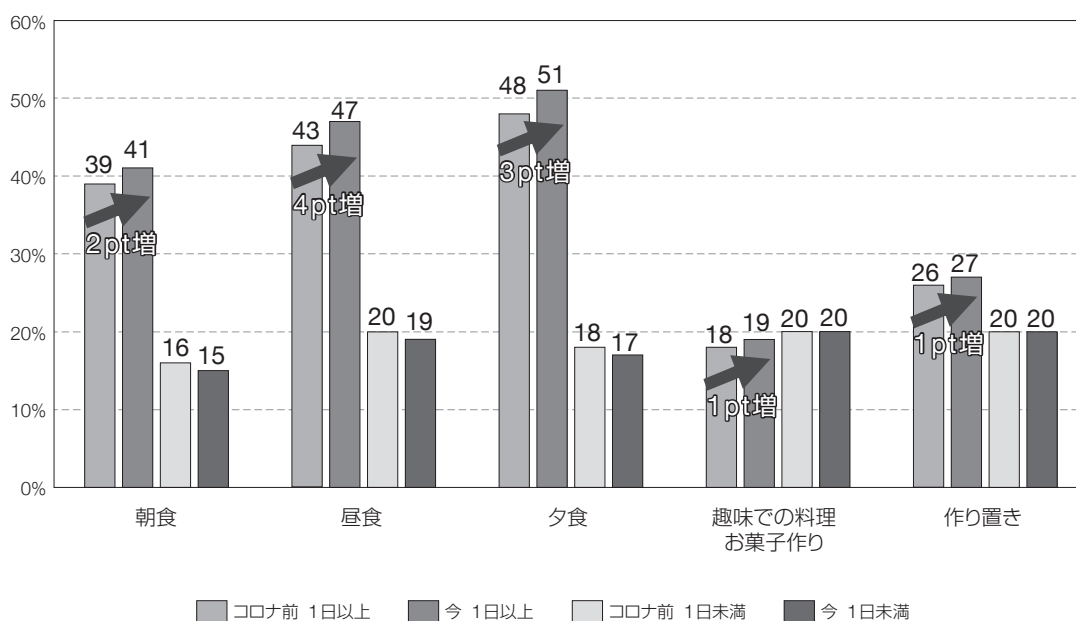
▶昼食は料理頻度が高い人たちで増加傾向

新型コロナウイルスの影響拡大以前（コロナ前）と現在（今）で比較すると、料理頻度に変化がみられ、やはり料理をする人の割合は高くなっている。

- ・平日*に週2日以上料理をする人の割合は、昼食、夕食、作り置きでやや増加（2～4pt）。
- ・休日*に週1日以上料理をする人の割合では、趣味の料理も含め、すべての食事機会が増加（1～4pt）。



料理機会別 料理頻度【平日】(コロナ前と今)
n=40,000



料理機会別 料理頻度【休日】(コロナ前と今)
n=40,000

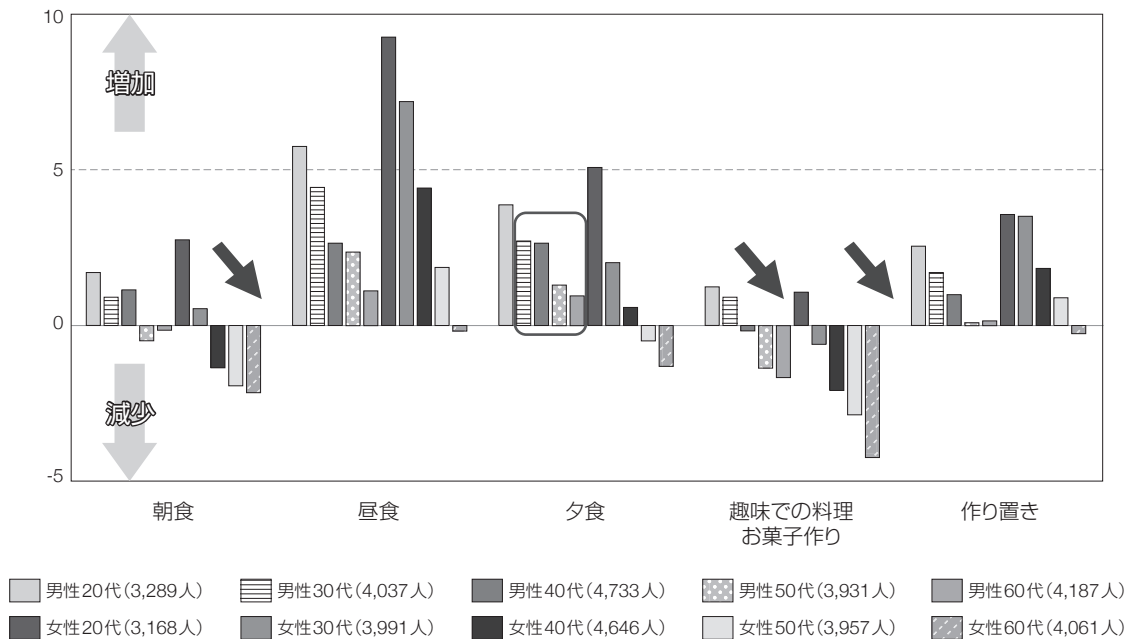
※平日（お仕事のある日）、休日（お仕事がお休みの日）

2. 料理頻度に変化があったのはどんな人か

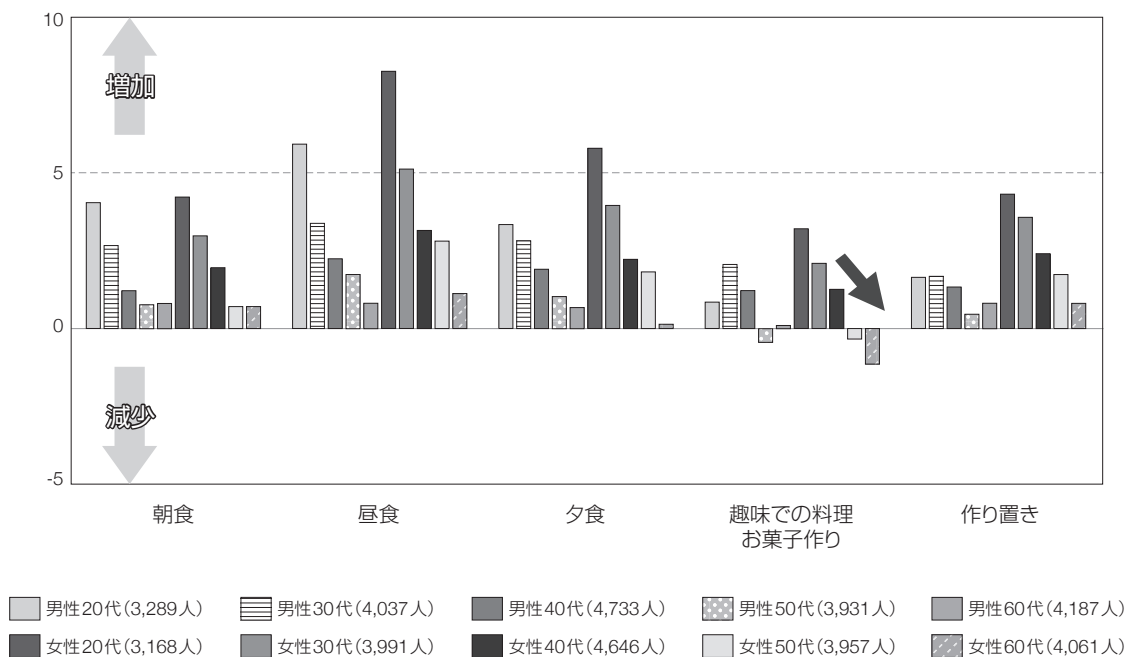
▶若年層20代・30代で変化の兆し

性・年代ごとに、コロナ前と今の料理をする人の比率差を比較すると、どの食事機会でも増加した人が多く、女性で増加した人が多い。また男女共に若年層の増加も目立ち、特に昼食は顕著。逆に年配層では減少した人が多くなった料理機会もみられる。

- ・平日に週2日以上料理をする人は、30代以上男性では夕食で増加比率が1～2pt女性を上回る。
- ・休日に週1日以上料理をする人は、ほとんどの性・年代、料理機会で比率が増加。
- ・平日の朝食、平日と休日の趣味の料理では、年代が上がるほど頻度が減った人が多くなり、特に女性が目立つ。



【性・年代別】料理機会における料理頻度差 平日2日以上料理をする（コロナ前と今・比率差）
n=40,000 ※比率差は+は増加を表す



【性・年代別】料理機会における料理頻度差 休日1日以上料理をする（コロナ前と今・比率差）
n=40,000 ※比率差は+は増加を表す

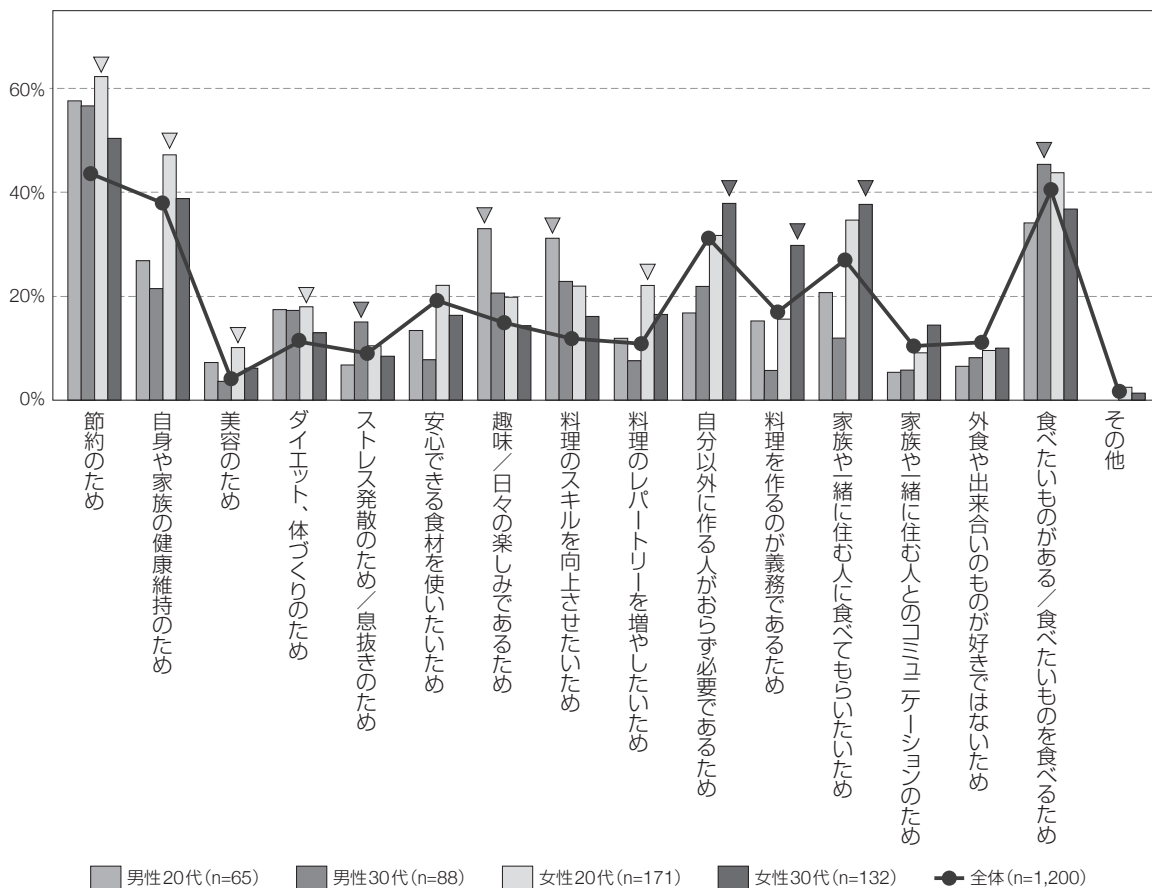
4. 若年層が食事を手作りする モチベーションは何か

▶ 目的を持ち手作りして楽しむ20代、30代になると男女で異なる

料理頻度に変化のあった若年層(20～30代)で、日々の食事を手作りする際の動機を見ると、若年層も性・年代で特徴が出てくる。

- ・男性20代は“趣味／日々の楽しみ”“料理のスキルを向上”（※▼参照）、男性30代は“ストレス発散／息抜き”“食べたいものがある／食べたいものを食べる”が高く（※▼参照）、若年男性は料理作りや食べることを楽しんでいる様子。

- ・女性20代は“節約”“自身や家族の健康維持”“美容”“ダイエット、体づくり”“料理のレパートリーを増やす”が高く、節約のためではあるがレパートリーを増やして食事を豊かにし、美容健康への配慮も忘れないといった様子がうかがえる。（※▼参照）
- ・一方女性30代になると自分以外に作る人がいなかったり、家族に食べてもらうためと答えた人の比率が高くなり、役割への意識や家族を思う気持ちがうかがえる。（※▼参照）



日々の食事を手作りする際の動機

今回の調査では、コロナ前と今、どの食事機会でも“料理をする”人が増加の傾向にあり、若年層の増加が目立ちました。在宅時間が増えた結果によるものでコロナ禍の影響を感じます。負担感が注目されがちですが、それぞれが「今」大切に思

うこと」のために料理をしているようです。

クリナップは、キッチンからより豊かな暮らしの提供ができるよう、調査から得られた傾向も踏まえながら、今後の商品開発やお客様へのよりよいサービスの提供を行ってまいります。

電気自動車からの給電で停電時のエレベーター継続利用を可能とするV2Xシステムの実証を開始

株式会社日立ビルシステム

■はじめに

株式会社日立ビルシステム（以下、日立ビルシステム）は、大規模地震をはじめとする広域災害時の復旧対応体制の強化、エレベーターなどのビル設備への影響を低減する機能・サービスの開発、提供を継続的に進めてきました。具体的には、地震時エレベーター自動診断・復旧システム「ヘリオスドライブ」をはじめとする多様なソリューション^{※1}を提供するとともに、日本国内で日立ビルシステムが保全契約を結んでいる18万台以上のビル設備について、さまざまな稼働データを遠隔でリアルタイムに収集・監視し、データ分析結果を基にした予防保全を実現する高度な遠隔監視・保全サービスを提供し、安全・安心・快適な都市生活を24時間365日守り続けています。

近年、広域災害に伴う大規模停電の発生と、それに伴う社会インフラの長時間の機能停止が大きな社会課題となっており、高層ビル・マンションなど、移動手段としてエレベーターが不可欠な建物において、非常時電源として太陽光発電設備や蓄電池などを整備し、災害に対するレジリエンスを強化するニーズが高まっています。そこで日立ビルシステムでは、安全確認が終わり、再稼働が可能となったエレベーターを、停電時でもバックアップ電源で稼働させるシステムの開発を進めてきました。

■実証実験の概要

日立ビルシステムは、このたび、広域災害などによって停電となった場合に、電気自動車とビルをつなぐV2X^{※2}の技術によって電気自動車から、エレベーターなどのビル設備に給電を行い、継続利用を可能とするシステムを開発しました。本システムは、停電発生時に、V2X対応充放電装置であるハイブリッドPCS^{※3}を使用してエレベーターなどのビル設備の電源を電気自動車からの給電に切り替えるとともに、エレベーターについて分速30mの低速運転に変更する制御を行うもので、最大で10時間程度^{※4}エレベーターを継続運転させることを可能にし、災害に対するレジリエンスを向上します。

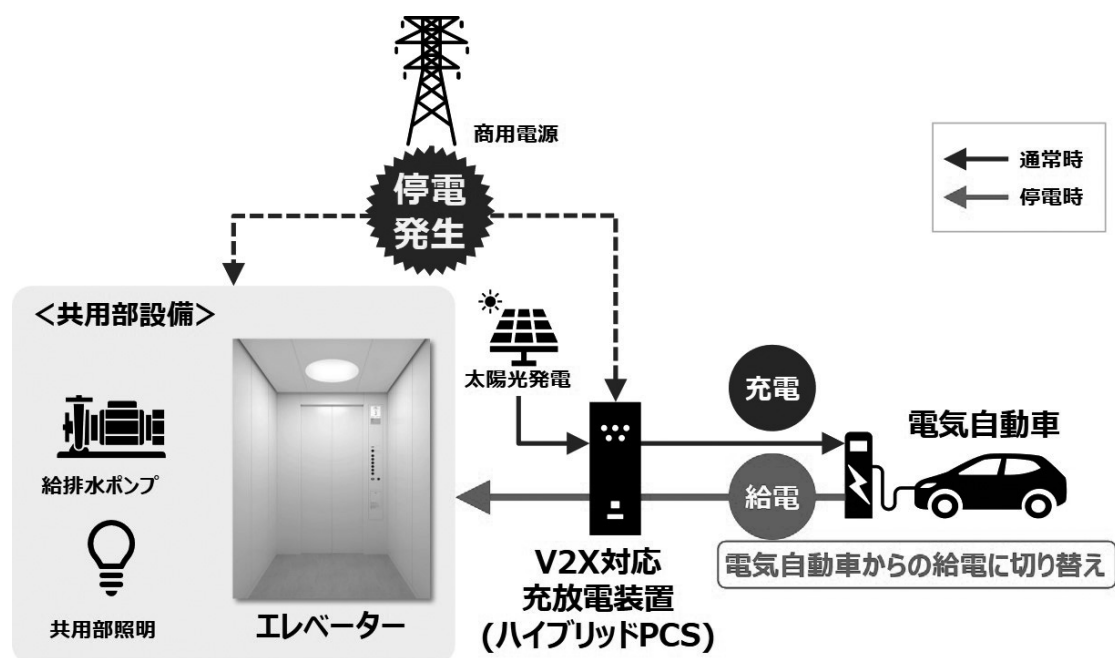


- ※1 エレベーターが震度5弱程度までの地震によって運転休止した場合に、自動診断運転によってエレベーターの状態を確認し、異常がなければ利用が可能な状態に仮復旧させるソリューションである「ヘリオスドライブ」をはじめ、地震の初期微動を感知し、事前に最寄り階で自動停止させる「初期微動感知地震時管制運転」、停電時にエレベーター内蔵の蓄電池で、自動的に最寄り階まで運行して運転を休止し、かご内への閉じ込めを防ぐ「停電時自動着床装置」や低速で約10分間継続運転を行う「停電時低速継続運転装置」など。
- ※2 V2X (Vehicle to X)：自動車とさまざまなモノとの接続や相互連携を行う技術の総称。エネルギー分野においては、電気自動車と、住宅やビル、電力網（グリッド）などをつなぎ、電力の相互供給を行うことを可能にするV2Xシステムの実用化が進められています。
- ※3 ハイブリッドPCS (Hybrid Power Conditioning System)：太陽光発電設備用と蓄電池用の2つのPCS（直流交流交換装置）を一体化した装置。今回開発したシステムは、電気自動車をつなぐビル側で太陽光発電設備を導入している形を基本仕様として設計しており、V2X対応充放電装置としてハイブリッドPCSを使用します。
- ※4 フル充電状態の40kWhのバッテリーを搭載した電気自動車から、5階建てのビルに設置された、日立標準型エレベーター「アーバンエース HF」(15人乗り、定格速度分速105m)に給電を行った場合の理論値。エレベーターの継続運転時間は、使用条件などによって異なります。

2022年4月、ビルソリューションの研究開発などを行う亀有総合センター（東京都足立区）に本システムを導入し、2022年中の実用化に向けて、実証を進めています。

■停電時の給電の流れ（イメージ）

停電が発生してエレベーターが運転を休止^{※5}した際に、ビル管理者がV2X対応充放電装置と電気自動車を接続し、システムを起動させることで、電気自動車のバッテリーを電源として、分速30mでの運転を速やかに再開することができます。



※5 「アーバンエース HF」では、標準装備仕様として、「停電時自動着床装置」をラインアップしています。「停電時自動着床装置」を搭載しているエレベーターでは、停電発生時、エレベーターがいったん停止した後に、かご内への閉じ込めを防ぐ「停電時自動着床装置」が起動し、エレベーター内蔵の蓄電池で自動的に最寄り階まで運行して運転を休止するシステムとなっています。

■今後の展開

現在、マンションデベロッパー各社は環境・レジリエンスという観点から、電気自動車用充電装置を完備したマンションの開発・販売を進めています。日立ビルシステムは、このような新築マンションを対象として、デベロッパー向けに提案を行っていきます。

また、非常時にこそエレベーターの利用が必要な公共機関や病院、老健施設などに対しても、新築時の同時施工の提案を行うとともに、既設ビルの場合は、大規模修繕やリニューアルのタイミングと合わせた本システムの導入を働きかけていくことで、災害に強い住環境・街づくりに貢献していきたいと考えています。

“パブリックトイレ” からインクルーシブな社会を考える 誰もが安心して快適に利用できるパブリックトイレを目指して、 WEB サイト「LIXIL パブリックトイレラボ」をオープン

株式会社 LIXIL

LIXIL パブリック トイレラボ

LIXIL PUBLIC TOILET LAB



パブリックトイレへのアクセシビリティは、社会参加の「障壁」となりうる大きな社会的テーマであり、「排泄」という人間の尊厳にも関わる人権問題でもあります。

また、パブリックトイレの課題は、2030年までの達成を目指す世界共通の目標である持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) にもつながっています。

株式会社LIXIL (以下LIXIL) は、コーポレート・レスポンスビリティ (CR) 戦略として、世界的な社会課題のうち、緊急性が高く、LIXILの専門性を生かし、事業活動を通じて貢献できる「グローバルな衛生課題の解決」「水の保全と環境保護」「多様性の尊重」を優先取り組み分野として定めており、CR活動を通じてSDGsに貢献しています。

その活動の1つとして、“誰もが安心して快適に利用できるパブリックトイレ”の普及を目指し、Webサイト「LIXILパブリックトイレラボ」をオープンしました。「LIXILパブリックトイレラボ」では、さまざまな人がいきいきと参加できる公正な社会の実現のために、外出先のトイレ環境のあるべき姿を考えます。

LIXILパブリックトイレラボ

URL : <https://www.lixil.co.jp/ud/publictoiletlab/>

■「LIXILパブリックトイレラボ」コンセプト

「LIXILパブリックトイレラボ」では、パブリックトイレの計画に携わる方だけでなく、すべての方に向け

て、“「トイレへのアクセス」は基本的人権のひとつです。”という強いメッセージを打ち出しています。さらにトップページには、「トイレへのアクセスと人権を考える」、「SDGsとトイレ」をテーマとしたページを設けました (人権・SDGsコンテンツ監修: 青山学院大学法学部教授 谷口洋幸)。

これまであまり議論されることのなかった「トイレと人権」について考え、公正な社会の実現の一助となることを目指します。

・トイレへのアクセスと人権を考える

普段、外出先のトイレを当たり前利用している人にとって、「トイレ」と「人権」を結びつけて考えることはほとんどないかもしれません。しかし、パブリックトイレの整備を考えるうえで、「人権」は重要なテーマのひとつです。身近な例や国際的な背景をヒントに考えます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs



パブリックトイレの課題

グローバルな衛生課題の解決

平等な教育機会の確保

アクセシビリティの保障

多様性の尊重

職場環境改善

災害への備え

・SDGsとトイレ

パブリックトイレの課題は、Goal 6「安全な水とトイレを世界中に」はもちろんのこと、一見無関係と思われる目標ともどこかでつながっています。

例えば世界では、安全で清潔なトイレがないことで、生存権が脅かされたり、学校に通えず教育の機会を奪われたりする人たちがいます。国内でも、トイレへのアクセスが保障されないことで外出をあきらめる人や、学校や職場で利用したいトイレが利用できず生きづらさを抱える人もいます。

SDGsを達成することは、これらの課題を解決することにもつながります。

例) 異性介助が必要な人や性別違和のある人など、男女に分かれたトイレを利用しづらいと感じている人々からニーズの高い「男女共用広めトイレ」のご提案。

利用者視点で考える

利用する人によって、困りごとともさまざまです。車椅子ユーザーや高齢者をはじめ、多様な利用者の視点から、さまざまな困りごととその解決策や、求められる配慮を考えます。

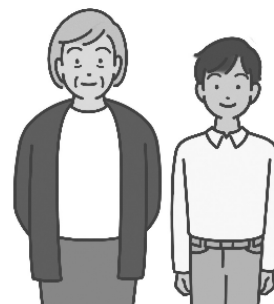
例) 日常的な買い物から仕事や学校、レジャーまで、車椅子ユーザーが安心して外出できるようになるために、必要なトイレの広さや設備、お勧めプランをご紹介します。

■「LIXILパブリックトイレラボ」コンテンツ概要

「LIXILパブリックトイレラボ」では、さまざまな視点からパブリックトイレのあり方について、考え、そのヒントとなる「情報提供」を行っていきます。コンテンツは以下の通りです。

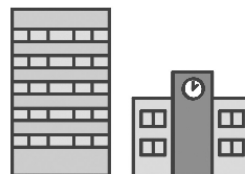
1. これからのパブリックトイレを考える

現在、バリアフリー法やガイドラインなどが整備され、さまざまな人が利用しやすいトイレ環境への改善が進められています。しかし、まだ十分とは言えません。社会の変化や利用実態を通してみえてきた課題から、年齢・性別・身体状況に関わらず、誰もが使いやすいパブリックトイレのあり方を考えます。



2. 建築用途から考える

オフィスや学校、商業施設など、施設の用途に応じて、トイレに求められる配慮は変わってきます。それぞれの施設利用者のニーズに合わせたパブリックトイレづくりのポイントを考えます。

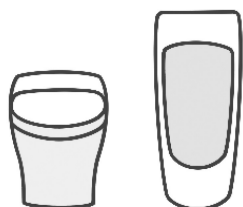


例) 新型コロナウイルス禍をきっかけにテレワークが普及する一方で、依然としてニーズの高い「オフィス」。仕事の効率にも影響する、「トイレ」に求められる配慮とは？ユーザーニーズ調査からひも解きます。

3. コーナー別に考える

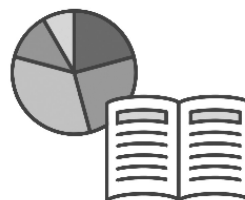
誰もが安心して快適に利用できるトイレ空間にするために、ユニバーサルデザインの視点から、大便器コーナーや手洗いコーナーなどに求められる配慮について考えます。

例) 大便器コーナーのページでは、「利用者の8割近くが「洋式便器」を希望」、「手すりの設置で動作をサポート」、「プライバシーへの配慮」、「男性用トイレにもサニタリーボックスを」などの項目を掲載。



4. LIXILの取り組み&お役立ち情報

LIXILの考え方をお伝えするさまざまな取り組みをはじめ、おすすめの「建築・設計関連コラム」、「施工事例」や「カタログ情報」、「調査レポート」などのお役立ち情報をまとめてお届けします。



LIXILは、これからも多様性尊重の観点から、誰もが安心して快適に利用できる“インクルーシブ”なパブリックトイレ空間の普及に取り組んでまいります。

■人権およびSDGsコンテンツ 監修者プロフィール

谷口 洋幸 (たにぐち ひろゆき)

青山学院大学 法学部 ヒューマンライツ学科 教授。中央大学大学院博士後期課程修了、博士(法学)。

専門領域：国際人権法、ジェンダー法。

役職等：日本学術会議連携会員。ジェンダー法学会理事、国際人権法学会理事、GID(性同一性障害)学会理事。

主な業績：『性的マイノリティと国際人権法』(日本加除出版・近刊)、『LGBTをめぐる法と社会』(日本加除出版・2019、編著)、『セクシュアリティと法』(法律文化社・2017、編著)、「人権としての性別」『ジェンダー法研究』5号(2018)ほか。

「iF デザインアワード 2022」受賞作品紹介

iFデザインアワードは「優れたデザインの証」として国際的に認知されているデザイン賞です。毎年、著名なデザイン・建築の専門家によって厳正な審査が行われます。デザイナーにとっては、優れたデザイン力の証明としてデザイナーの実力を示すとともに、コミュニケーション・ツールとして活用され、また企業にとっては、新たな市場を獲得し、価値あるメディアからの注目を得るためのマーケティング・ツールとし

て役立っており、単なるイベント以上の価値を見出すことのできるユニークなものとなっています。

今年は、132名のデザイン専門家が過去最大の約11,000点のエントリーを厳正に審査し1,973社に「iFデザインアワード2022」が授与されました。

リビングアメニティ協会会員企業様の受賞内容の一部を紹介させていただきます。

企業名	商品カテゴリー	受賞商品・項目名
株式会社日立ビルシステム	エレベーター	標準型エレベーター「アーバンエース HF」
TOTO株式会社	トイレ	ネオレストLS/AS
	バスルーム	Zセクション 棚付きサーモスタットシャワーバー ※海外向け Zセクション オーバーヘッドシャワー ラウンド/スクエア ※スクエアは海外向け
株式会社LIXIL	自動水栓	AUTOMAGE GX
	バスルーム	SPAGE
	窓まわり関連製品	TOSTEM Window Appliances
	パーティション	Multi Work Studio
リンナイ株式会社	無水調理鍋	「Leggiero (レジェロ)」

詳細は各社WEBサイト(ニュースリリース等)をご覧ください

【企業名】株式会社日立ビルシステム

【製品名】アーバンエース HF

【概要】「アーバンエース HF」は、約7年ぶりの標準型エレベーターの新モデルとして2021年4月19日に販売開始した、日立昇降機製品・サービスの開発コンセプトである「HUMAN FRIENDLY (HF)」を具現化した製品です。世界的なプロダクトデザイナーである深澤直人氏監修によるシンプルな新デザインと、「かご内クリーン運転」や「密集回避運転」、「非接触登録装置」などの最新の感染症リスク軽減ソリューション、エレベーターの稼働状況の確認や運行制御をPCやスマートフォン上で行えるビルオーナー・管理者向けダッシュボード「BUILLINK (ビルリンク)」※1をはじめとするLumada※2のソリューション適用などによって、ニューノーマル時代のスタンダードとなる安全・安心・快適を提供し新たなエレベーター利用体験を実現します。

【ウェブサイトでの紹介ページ】

<https://www.hbs.co.jp/ad/urbanacehf/>

<https://www.hbs.co.jp/products/elevator/new/standard/ua/>



※1 日立ビルシステムとの保全契約が必要となります。

※2 お客様のデータから価値を創出し、デジタルイノベーションを加速するための、日立の先進的なデジタル技術を活用したソリューション、サービス、テクノロジーの総称。

【企業名】TOTO株式会社

【製品名】ネオレストLS

【概要】「世界をリードする新しいネオレスト」をコンセプトに開発された、グローバル統一モデルです。便器部は継ぎ目がないフルスカート形状や、真横から見ても美しいウエーブラインを描くフタ。また、金属調アクセントカラーを加えることで、水栓金具などさまざまなアイテムと調和し、上質な空間を生み出します。世界で求められるデザインとテクノロジーの融合を高いレベルで実現しました。

【ウェブサイトでの紹介ページ】 <https://jp.toto.com/products/toilet/neorest/>



【企業名】株式会社LIXIL

【製品名】TOSTEM Window Appliances

【概要】TOSTEM Window Appliancesは、世界最高水準の意匠性、機能性、安全性を兼ね備えた窓まわり関連製品コレクションです。

今後長く使い続けられるように「人と建築の調和」をテーマに、全ての窓種を対象に、人に優しい曲線と建築に美しく納まる直線の二つの要素を上手く合わせ持った意匠性の統一を図り、遠隔操作が可能なIoT機器や電動開閉機器を搭載された機能性・安全性を最大限に追求して実装しました。TOSTEMブランドのアイデンティティを3つの要素で表現しており、これからの生活空間を新たなステージへ導いてくれる、新たな付加価値を持った窓まわり関連製品開発が実現しました。

・L-Fit.

人の手に馴染む優しい曲線と、建築に美しく納まる直線に限りなく見える微細な曲線で構成された造形表現を実現。プロダクトを薄く見せるだけでなく、精緻で上品な美しさを演出してくれます。また、清掃性を考慮された水平・垂直の形状で統一しております。

・Minimal.

株式会社LIXILの長年の研究と技術を駆使して作り上げられています。徹底的に無駄な機構や構造を省くことによって、世界最高水準の意匠性、機能性、安全性を実現しました。

・Device.

IoT機能、電動開閉機能、タイマー設定による自動操作や外部天気情報や熱中症危険度情報と連携することで自動換気をしてくれる機能などを搭載しており、それら全てが遠隔操作が可能となっており、人に優しい配慮が施されています。



【企業名】リンナイ株式会社

【製品名】無水調理鍋 Leggiero(レジェロ)

【概要】コンセプトは「簡素で上質」。無駄を削ぎ落としたシンプルなフォルムはどんなキッチン空間にもなじみます。圧倒的な軽さは、日常使いしやすい取り回しの良さを実現しました。長年のガスコンロ開発経験で培われた当社独自の技術により、優れた調理性能を発揮します。また、高い加工精度により、本体と蓋の形状や寸法など細部にまでこだわり丁寧に仕上げました。

【ウェブサイトでの紹介ページ】 <https://rinnai.jp/leggiero/>



『レッドドット・デザイン賞 2022』受賞作品紹介

『レッドドット・デザイン賞』は、ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンターが主催する国際的なデザイン賞で、iF賞（ドイツ）、IDEA賞（アメリカ）と並ぶ世界3大デザイン賞として、世界でも権威ある賞の一つです。過去2年以内に製品化され

たデザインを対象とし、デザインの審美性、革新性など9つの基準から審査されます。今年は、世界各国から約2万点のエントリーがありました。

リビングアメニティ協会会員企業様の受賞内容の一部を紹介させていただきます。

企業名	商品カテゴリー	受賞商品・項目名
TOTO株式会社	水栓他	「マットブラック表面仕上げ」※海外向け
	一体形便器	次期「ネオレストシリーズ」2点
	トイレ用リモコン	次期「スティックリモコン」
マックス株式会社	電動ホッチキス	「Vaimo11E-SQ（エスク）」
株式会社LIXIL	洗面器	S200 LINE Basins
	シャワーシステム	S200 LINE Exposed Shower System
	バスルーム	S200 LINE Collection
	バスルーム	SPAGE
	窓まわり関連製品	TOSTEM Window Appliances
	パーテーション	Multi Work Studio
リンナイ株式会社	無水調理鍋	「Leggiero（レジェロ）」
	ウォールインオープン	「G:201」

詳細は各社WEBサイト(ニュースリリース等)をご覧ください

【企業名】 TOTO株式会社

【作品名】 マットブラック表面仕上げ（水栓他） ※海外向け

【概 要】 水栓金具めっき表面にTOTO独自技術の「ショットブラスト加工」を施すことにより、わずかに光を反射するマット質感のブラック色を実現。塗装では表現できない、まるでシルクのような繊細な光沢感が空間に溶け込みながらも上質で品の良い存在感を放ちます。

表面は摩耗し難く傷つき難いため、ハードユースなバスルームにおいても日々の清掃がラクになり、美しさが持続します。

【ウェブサイトでの紹介ページ】 https://jp.toto.com/company/press/2022_03_24_08/



【企業名】株式会社LIXIL

【作品名】Multi Work Studio

【概要】Multi Work Studioは、独自のモジュールシステムを採用することにより、ユーザーのニーズや用途に合わせて、住宅のなかに新たな空間を構成することのできる、意匠性、機能性、拡張性に非常に優れたアルミのパーテーションです。

昨今ウィルスの影響により、生活様式に急激な変化が求められてきました。リビング空間は日中は育児、学習、仕事場に変化しており、住宅には高い柔軟性が求められています。空間を自由自在にカスタマイズすることが可能となり、生活様式の変化に合わせてアップデートできる仕組みづくりを実現しました。これからのスタンダードな製品になることを期待しています。

・ミニマムデザインの追求。

徹底的に無駄な造形と機能を省いて、世界最高水準の意匠性と機能性が両立された枠部材の開発を実現。空間を間仕切りながらも視覚的な連続性を生み出すことができます。

・機能性、安全性の追求。

多種多様な品種や機能製品との連携が可能となっており、ニーズや用途に合わせて自由自在に機能製品を選択をすることができるため、機能的で安全性の高い空間を構成することができます。

・拡張性、柔軟性の追求。

住宅の限られたスペースに設置しやすいように、全ての製品を1mm単位でサイズを決めることができます。また、独自のモジュールシステムを採用することにより、意匠性や機能性を容易変更できます。



【企業名】リンナイ株式会社

【作品名】ウォールインオープン G:201

【概要】「G:(ジー)」ラインは、上質感と高級感を追求した商品ラインアップで、従来の厨房商品とは一線を画すカテゴリーとして位置づけており、ウォールインオープンG:201は、ドミノ式ビルトインコンロG:101に続く「G:(ジー)」ラインの商品の第2弾です。ブラックガラスとステンレス材を採用し、堅牢でありながらも端正なフロントフェイスに仕上げました。ディティールまでこだわり抜いたG:201が、キッチン空間を美しく演出します。

【ウェブサイトでの紹介ページ】 <https://rinnai.jp/g/>

